R063167N

TOTO

施工説明書

小型電気温水器
湯ぽっと REW－Eシリーズ
REW06A1E1型

1 安全上の注意

安全のために必ずお守りください

取付け工事の前に、この「安全上の注意」をよくお読みの上、正しく取付けてください。
この施工説明書では、製品を正しく取付けていただき、使用者への危害や財産への損害及び工事者への危険を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。
その表示は、つぎのようになっています。

表示	意味
⚠警告	この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が傷害を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

下記に示す内容は、施工説明書や製品に表示して、工事業者の方に安全に正しく製品を取付けていただくものです。内容をよく理解して正しく取付けてください。

表示	意味
禁止	行ってはいけない「禁止」の内容です。
必ず実行	必ず実行していただく「強制」の内容です。
水場での使用禁止	風呂・シャワーなど水場では、使用しないでください。
アース接続	必ず、アース線を接続してください。

取付け工事完了後、施工説明書に記載の「試運転」にしたがって各部の点検を行い器具のがたつきや漏電・漏水など安全上の不具合がないことを確かめてください。

製品に同梱されている「取扱説明書（保証書付）」は、使用者に製品を正しく安全に使用していただくための重要な書類です。紛失したり汚れたりしないように大切に保管し、工事完了後、使用者又は建築工事責任者にお渡しください。
なお、保証書には必要事項を必ずご記入ください。

⚠警告

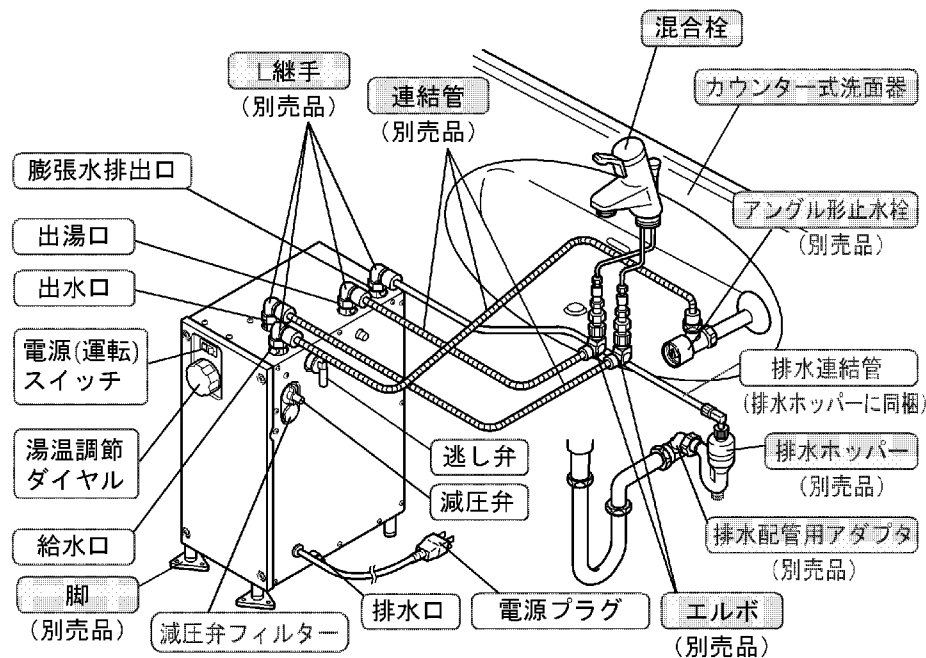
表示	内容
禁止	屋内用ですので屋外には設置しないでください。（故障・感電の原因になります）
水場での使用禁止	水がかかったり、表面に結露を生じるような湿気の多い場所、特に浴室やシャワールームには設置しないでください。（故障・感電の原因になります）
アース接続	必ずアース工事を行ってください。（感電のおそれがあります）
必ず実行	消費電力、電源を銘板で確認し、必ずこれに適した配線をしてください。（火災の原因になります）
	中継コードを接続する際は、必ず電源コードを抜いてください。（感電の原因になります）

⚠注意

表示	内容
禁止	タンクが空のときは、絶対に電源プラグをコンセントに差込まないでください。（空焚きとなり故障・やけどの原因になります）
	水道水以外は、通水しないでください。（井戸水等を通水すると腐食等により漏水するおそれがあります）
必ず実行	凍結のおそれがある場合は、電源プラグを抜いてタンク内のお湯を抜いてください。（凍結により破損し、漏水するおそれがあります。）
	必ず連結管内の水抜きがスムーズにできる勾配で取付けてください。（凍結した場合、破損し漏水するおそれがあります）
	排水管は、耐熱性のものを使用してください。（熱による変形や割れ等で漏水するおそれがあります）
	湯温調節ダイヤル付機種は必ず湯水が混合できる先止め水栓を取付けてください。（高温の湯が出てやけどの原因になります）

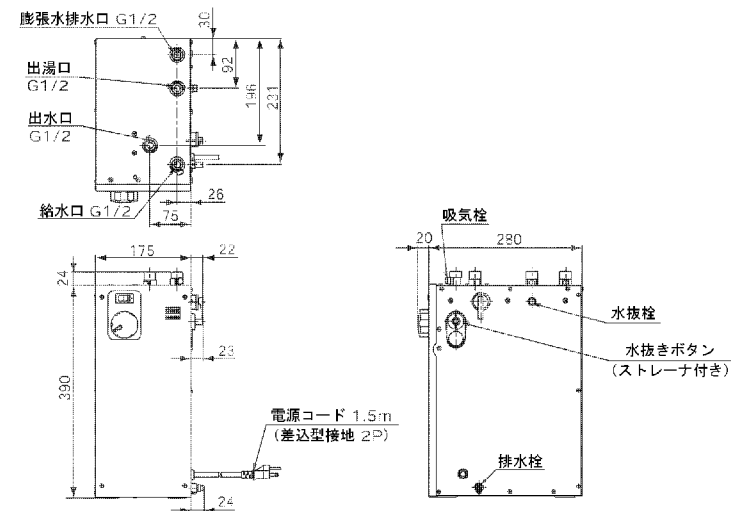
おねがい

- 給水圧力は0.05～0.75MPa（自動水栓との接続の場合0.1～0.75MPa）です。
- 必ずフィルター付アングル形止水栓（必要別売品）を取付けてください。
- 必ず膨張水処理のため排水ホッパー（必要別売品）を取付けてください。
- 空焚き、施工上の責任は、当社では、負いかねますので、万一施工上に起因する不都合が生じた場合、貴店の保証規定によって修理していただくようおねがいいたします。

2 各部の名称

3 部品の確認 施工前に必ず部品を確認してください。

4 仕様 詳しくは取扱説明書を参照してください。

- 給水方式：先止め式（減圧弁、逃し弁内蔵）
- 沸き上がり温度 ：約30～75℃
- 使用水圧：0.05～0.75MPa
  ※自動水栓と接続する場合、0.1～0.75MPa
- 使用可能雰囲気温度：0～40℃ （凍結不可）
- 安全装置：温度過昇防止器（手動復帰式バイメタル）

5 寸法図

6 別売品一覧

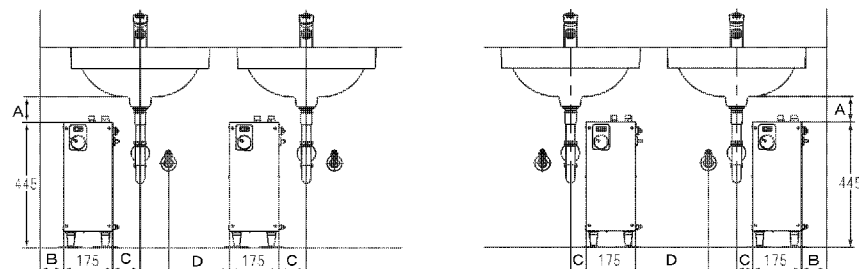
品名	品番	メーカー希望小売価格	備考
排水ホッパー 密閉式	RHE97N	¥17,000	膨張水処理用
排水ホッパー 開放式	RHE22A	¥12,000	
アングル形止水栓	TL347C	¥4,500	給水用フィルター付（壁給水用）
	TL347C1	¥9,000	給水用フィルター付（床給水用）
湯ぽっと用脚	RHE1	¥1,400	床に直接設置する場合及び水にひたるおそれのある場合に使用
排水配管用アダプタ	T1122T	¥720	40mm塩ビ管用、排水ホッパー接続用（壁床排水用）
	T1122J	¥480	30mm塩ビ管用、排水ホッパー接続用（壁排水用）
	T1122	¥1,200	R1¼銅管用（壁排水用）、排水ホッパー接続用
水栓固定金具	TN57-1X	¥21,000	2個入 自動水栓固定用
L継手	RHE622	¥2,500	1個入 本体の各接続口の接続方向を垂直から水平に変更する場合に使用。
エルボ	RHE437	¥2,000	1個入 本体に接続した連結管と水栓の脚部を接続する際に使用。
連結管	RHE436-20	¥1,200	L=200mm
	RHE436-30	¥1,400	L=300mm
	RHE436-40	¥1,600	L=400mm
	RHE436-50	¥1,800	L=500mm
	RHE436-60	¥2,000	L=600mm
	TN65LX75	¥2,950	L=750mm

7 標準施工図

（単位：mm）

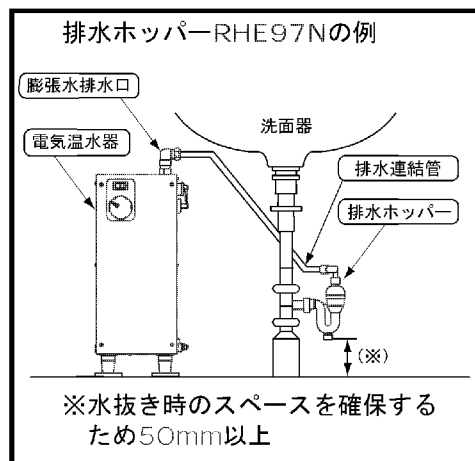
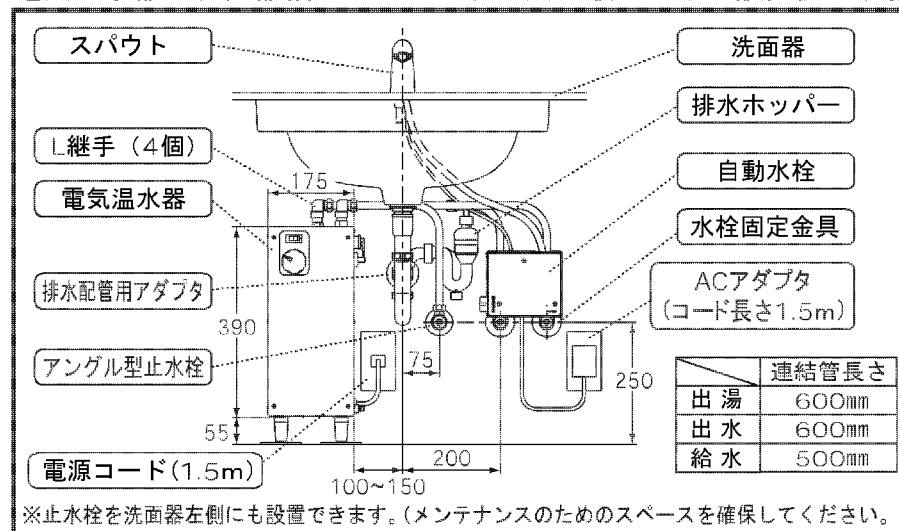
施工およびメンテナンスのためのスペース

＜洗面器に対して左設置＞

＜洗面器に対して右設置＞

A寸法：80以上 ・・・・・・・ 脚のアジャスタ調節および配管接続に必要な寸法。
B寸法：100以上 ・・・・・ 脚を固定するためのネジ止めができる寸法。
C寸法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 洗面器の排水金具のメンテナンスおよび電気温水器の水抜き操作、排水ホッパーの設置に必要な寸法。
P6～7の設置例を参照ください。
※セットする洗面器・水栓によって接続する連結管が異なり、C寸法、止水栓位置も異なります。詳しくはお問合わせください。
D寸法：45以上 ・・・・・・・ 止水栓の開閉ができる寸法。

施工の際の注意点

・床給水、床排水にも対応できます。排水ホッパーと配管が干渉しない様に設置してください。詳しくは排水ホッパーの施工説明書を参照ください。

・ポップアップ付の水栓と接続する場合は、ポップアップレバーの動作に支障がない様に配管を接続してください。

自動水栓 洗面器1連設置例（洗面器に対して左側設置）

電気温水器が洗面器幅からはみ出す寸法が最小となる設置例です。

	連結管長さ
出 湯	600mm
出 水	600mm
給 水	500mm

※止水栓を洗面器左側にも設置できます。（メンテナンスのためのスペースを確保してください。）

自動水栓 洗面器1連設置例（洗面器に対して右側設置）

電気温水器が洗面器幅からはみ出す寸法が最小となる設置例です。

	連結管長さ
出 湯	750mm
出 水	600mm
給 水	500mm

※止水栓を洗面器右側にも設置できます。（メンテナンスのためのスペースを確保してください。）

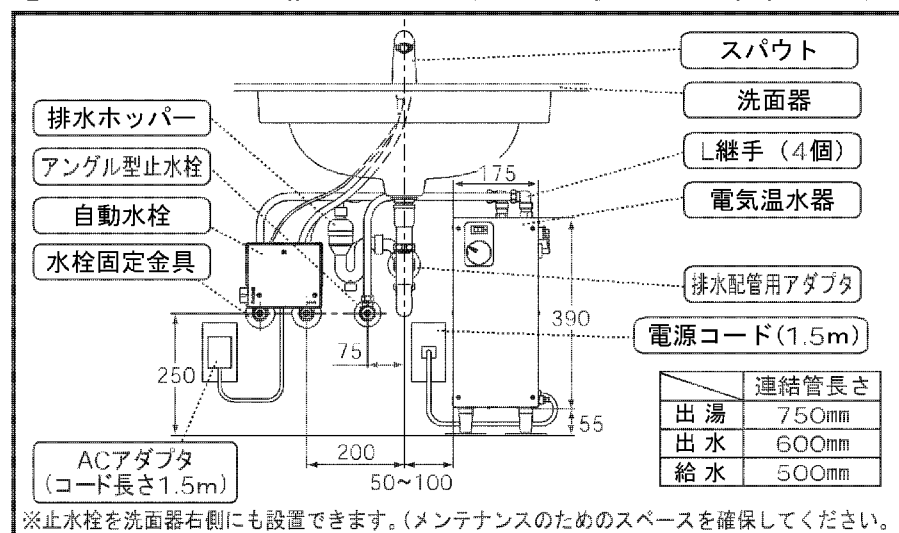
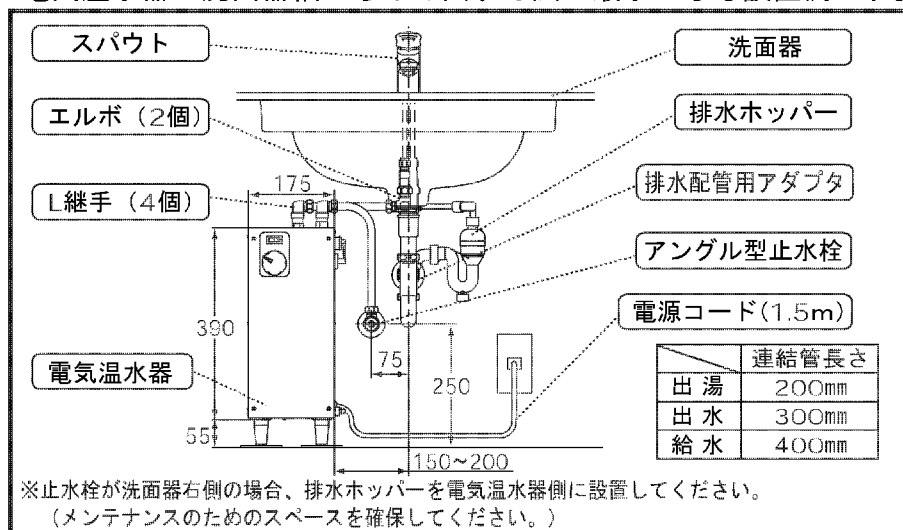
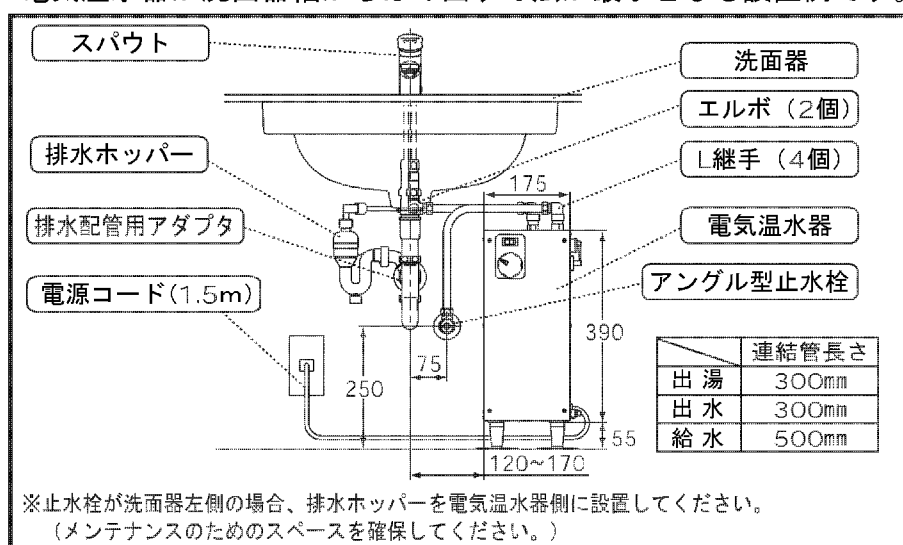
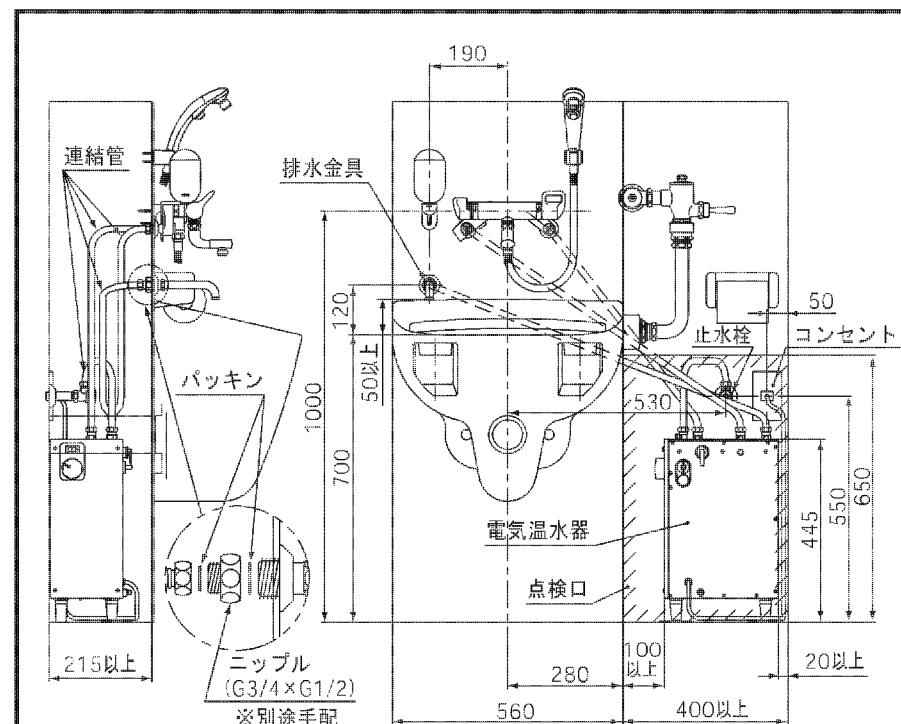
1穴混合栓 洗面器1連設置例（洗面器に対して左側設置）
電気温水器が洗面器幅からはみ出す寸法が最小となる設置例です。

	連結管長さ
出 湯	200mm
出 水	300mm
給 水	400mm

※止水栓が洗面器右側の場合、排水ホッパーを電気温水器側に設置してください。
（メンテナンスのためのスペースを確保してください。）

1穴混合栓 洗面器1連設置例（洗面器に対して右側設置）
電気温水器が洗面器幅からはみ出す寸法が最小となる設置例です。

	連結管長さ
出 湯	300mm
出 水	300mm
給 水	500mm

※止水栓が洗面器左側の場合、排水ホッパーを電気温水器側に設置してください。
（メンテナンスのためのスペースを確保してください。）

汚物流しに接続する例　（現場でライニングを造作する場合）

・上図の斜線位置に点検口を設けてください。
・湯ぽっと用脚（RHE1）のアジャスター付き脚が手前になるように取付けてください。
・膨張水の排水は排水金具（T406B1 別途手配）を用いて汚物流しへ膨張水が排出されるようにしてください。（吐水口空間50mm以上必要）
・排水管を横引きする等の場合は電気温水器の位置を壁固定金具（現場手配）等を用いて配管の邪魔にならない高さまで上げてください。その際、電気温水器がぐらついたり、落下しないようしっかり固定してください。
・電気温水器と水栓や止水栓、排水金具を接続する連結管は現場手配となります。

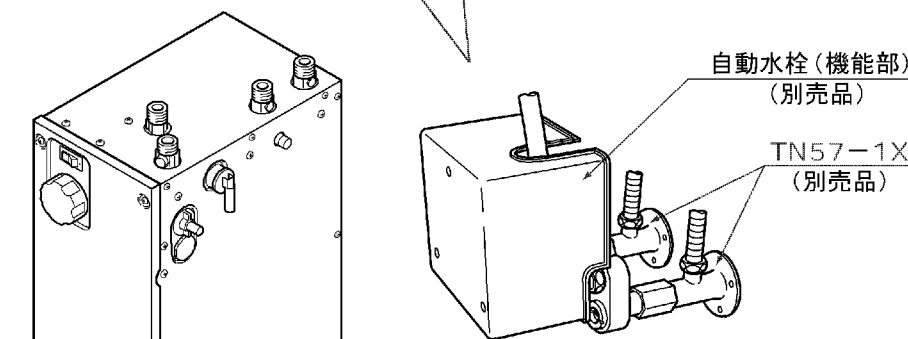
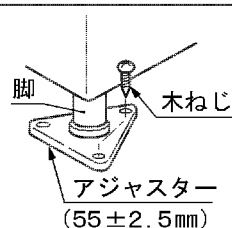
※汚物流しの出湯温度は42℃以下にしてください。
〔サーモスタットシャワー金具（TMG40WQV18）とのセットをおすすめします。〕
高温のお湯を流すと陶器が破損し、けがをすることがあります。

8 電気温水器本体の設置

⚠警告

禁止	屋内用ですので屋外には設置しないでください。 （故障・感電の原因になります）
水場での使用禁止	水がかかったり、表面に結露を生じるような湿気の多い場所、特に浴室やシャワールームには設置しないでください。 （故障・感電の原因になります）

下図の要領で電気温水器本体を設置してください。

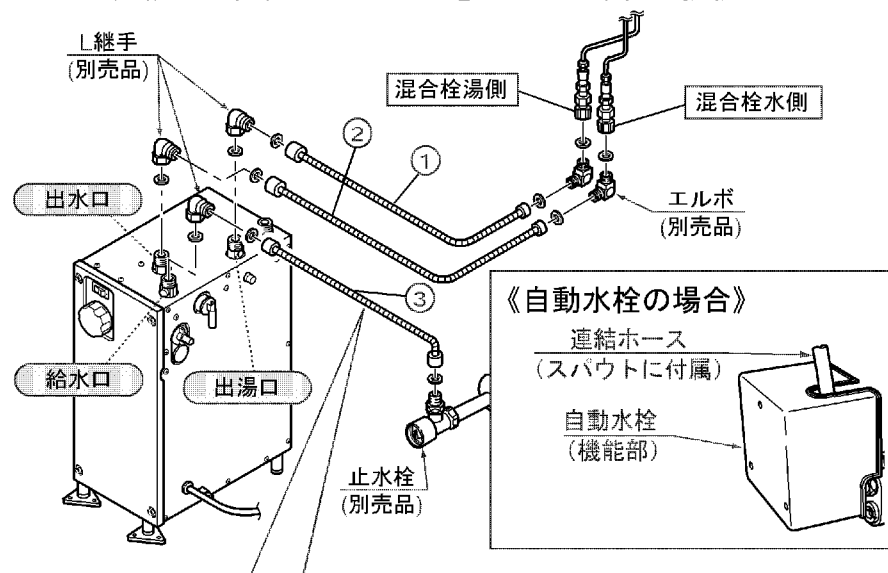
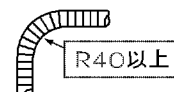
《自動水栓を接続する場合》
水栓固定金具（別売品：TN57ー1X）をご使用ください。

《床に直置きする場合》
床に電気温水器を直置きする場合は、湯ぽっと用脚（別売品：RHE1）をご使用ください。
また、水平になるように脚で高さを調節してください。

9 連結管（別売品）の取付け

●建築躯体側配管の配管接着剤が乾燥していない状態で電気温水器を取付けないでください。
（接着剤が乾いていない状態でお湯を通すとお湯が臭うことがあります。必ず接着剤が乾いていることを確認してから取付けてください。）

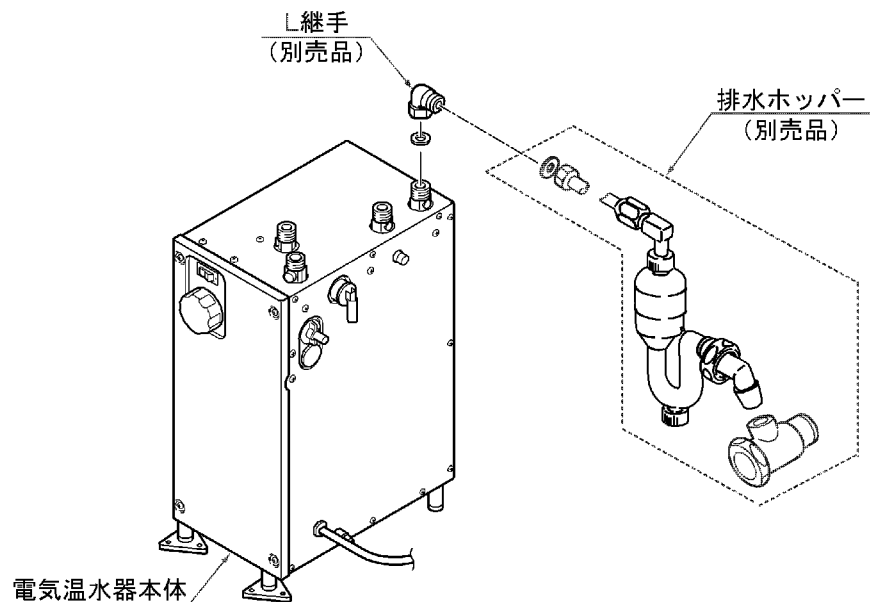
混合栓（別売品）及び止水栓（別売品）に連結管を接続してください。

※混合栓の取付け方法は、混合栓に同梱の「施工説明書」を参照してください。

●給水口に接続する前に必ず、止水栓を開けバケツ2杯（約20L）程度の水を捨ててください。（ゴミ等が機器本体内に入ると故障の原因になります）
●混合栓水側への給水配管は、必ず電気温水器の出水口より接続してください。（減圧弁の故障の原因になります。）

下図の要領で連結管（別売品）を電気温水器本体に接続してください。

●連結管は、極端に折らないでください。

●ポップアップ付の水栓と接続する場合はポップアップレバーと連結管が接触しないようにしてください。また、水栓と接続する連結管は電気温水器側が下り勾配になるように接続してください。
●連結管の接続は図の番号順に接続すると作業が楽です。

10 排水ホッパー（別売品）の取付け

下図の要領で排水ホッパー（別売品）を電気温水器本体の膨張水排出口に接続してください。

※排水ホッパーは必ず、電気温水器1台につき、1個取付けてください。

※排水ホッパーの取付けは、排水ホッパーに同梱の「施工説明書」にしたがって取付けてください。

11 電気工事

⚠警告

アース接続	電気工事は、関連する法令、法規にしたがって必ず「有資格者（電気工事士）」が行い、D種接地工事（100Ω以下）を行ってください。 また、漏電遮断器を取付けてください。 （誤った工事を行うと故障や漏電の時に感電するおそれがあります）
必ず実行	消費電力、電源を銘板で確認し、必ずこれに適した配線をしてください。 （火災の原因になります）

1）電源が規定の電圧であることを確認してください。

2）接地付電源プラグになっていますので、必ず、対応したコンセント工事と電源容量を確保してください。

品番	電圧	消費電力	対応コンセント
REW06A1E1	単相100V	1.1kW	WK3001（露出型）　:松下電工 WN1101（埋込み型）:松下電工

12 試 運 転

⚠注意

禁 止	タンクが空のときは絶対に電源プラグをコンセントに差込まないでください。(空焚きとなり故障・やけどの原因になります)

●給水口に接続する前に必ず、止水栓を開けバケツ2杯(約20L)程度の水を捨ててください。(ゴミ等が機器本体内に入ると故障の原因になります)

1) 電気温水器への給水

《シングルレバー混合栓及び2ハンドル混合栓の場合》

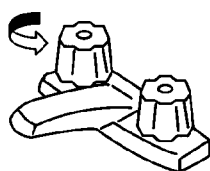
①止水栓を開ける。

②混合栓の水側を閉め、湯側を全開にする。

【シングルレバー混合栓】

湯側にする

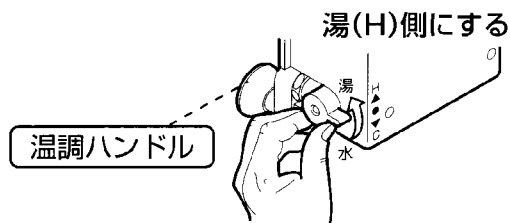
【2ハンドル混合栓】

湯側を全開にする

③混合栓から安定して水が出ることを確認し、混合栓を閉める。
　タンクが満水になると混合栓から水が出ます。

④配管接続部からの水漏れがないことを確認する。

《自動水栓の場合》

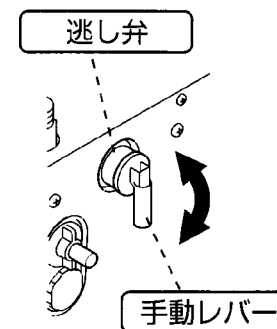
①止水栓を開ける。

②自動水栓(機能部)の温調ハンドルを湯側全開にする。

③電気温水器の逃し弁の手動レバーを引き上げる。

④排水ホッパーから水が出はじめたら逃し弁の手動レバーを元に戻す。

⑤自動水栓のスパウトのセンサーを作動させ水が出はじめたら、タンクは満水です。

⑥配管接続部からの水漏れがないことを確認する。

⑦自動水栓(機能部)の温調ハンドルを戻す。

2) 電気温水器への通電

①タンクが満水になったことを確認し、電源プラグを差込む。

②湯温調節ダイヤルで温度を設定する。

③電源(運転)スイッチを「入」にし、ランプが点灯することを確認する。

④電源(運転)スイッチを「切」にし、電源プラグを抜く。
　(ランプは、消灯します)

減圧弁、止水栓のフィルターにゴミが詰ると故障の原因になります。
試運転後、フィルターの掃除を行ってください。
(掃除の方法は、取扱説明書を参照してください)

※減圧弁・逃し弁は消耗部品です。劣化により機能の低下や水漏れする可能性があります。必ず定期的に交換するよう、お客様に説明してください。(交換のめやす:5年)

13 機器内の水抜き

⚠注意

必ず実行

凍結のおそれがある場合は、電源プラグを抜いてタンク内のお湯を抜いてください。（凍結により破損し、漏水するおそれがあります。）

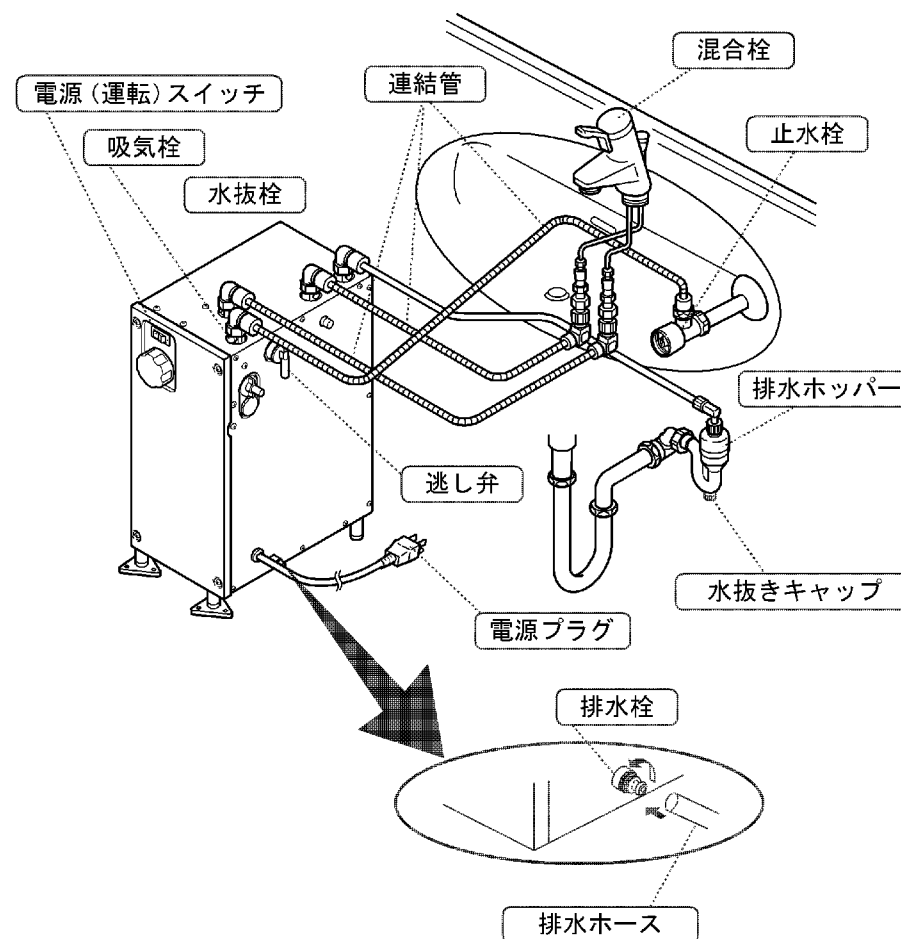
〔水抜き手順〕

①電源（運転）スイッチを「切」にし、電源プラグを抜く。
②混合栓の水側及び湯側を開け、タンク内の湯を完全に出し切る。
　注 タンク内に湯が残っているとやけどをするおそれがあります。
③止水栓を閉める。
④同梱の排水ホースを機器本体の排水栓に接続し、排水栓を開け、タンク内の水を抜く。

注)水を抜く際は、必ず受け皿等で受けてください。

⑤給水口の吸気栓を開け、連結管内の水を抜く。
⑥排水ホッパーの水抜きキャップを外し、排水ホッパー内の水を抜く。
⑦本体側面の水抜栓を開け、逃し弁の手動レバーを引き上げ、連結管内の水を抜く。

注)水を抜く際は、必ず受け皿等で受けてください。

⑧水抜きが完了したら逃し弁の手動レバーを下げ、機器本体の水抜栓・排水栓・吸気栓及び排水ホッパーの水抜きキャップを閉めてください。

配管の凍結予防

●電源（運転）スイッチが「入」の状態でも配管が凍結する場合は、必ず給水、出水、出湯側の各連結管と排水管に保温材又は、ヒータを巻いてください。